

# K O Σ M O Σ

Vol. 6, No. 1 1971. 6. 15

## 「明治期刊行図書目録」を手にして

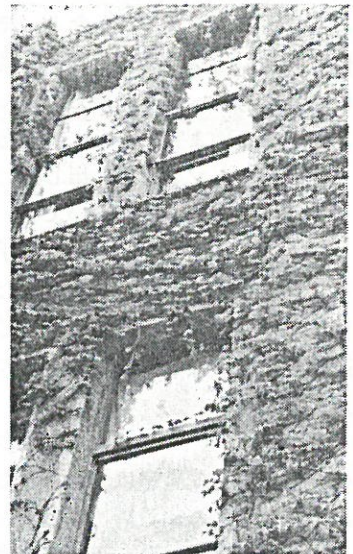
岡田 温

このたび国立国会図書館から「明治期刊行図書目録」の第1巻が刊行された。これは旧上野図書館が「乙部図書」と称していた未公開のものをも含めた約12万タイトルの明治期刊行図書の総目録で、国会図書館が明治百年記念事業として昭和41年から編さんを開始したものの最初の巻である。全5冊、完成までには更に数年を要するという大出版事業である。

今回刊行の第1巻は「哲学・宗教・歴史・地理の部」で、B5判1009ページという大冊もので、私のような図書館育ちの人間には、このような目録を1ページずつページを繰って行くことは、何ともいえない喜びである。この編さんに従事して来た、何人もの図書館員のそれこそ一角一点をもゆるがせにしない辛抱強い努力のあとが、どのページにもにじみ出ていることに気がつくからである。貴重な努力だと思う。それと共に今回の目録には、明治の人達の著作というものが、いろいろの姿形で現われて来るのを見るのも誠に楽しい。

学生の頃、私は桑木岐翼先生から哲学概論や哲学史の授業を受けた。その時、明治の初め、ザインとゾルレンを日本語に訳すに当って、ザインの「存在」はよいとして、ゾルレンの訳語に困り、英語で“ought to”という所から音を移して「応当」と訳したなどという先生の話で、未だに面白く記憶に残っているが、またフィロソフィーが「哲学」に落ちつくまでも幾変遷のあったことも伺った。今、この目録を手にして見ると、なる程明治も10年代の中頃以前には、書名に哲学という文字を用いたものではなく、代りに「理学」「利学」などの文字が見える。念のため広辞苑に当たてみると、「利学」はなかったが「理学」には今日いう物理学などの理学の外に、明治期の用語として「哲学」の意味のあることが明記されていた。論理学なども「論事矩」「論法講義」「議論推理之法」などとなっているのも誠に興味深いが、同時に新らしい思想を取り入れるに当っての、先人達の苦心の程が今更ながら尊く感じられる。

(図書館長)

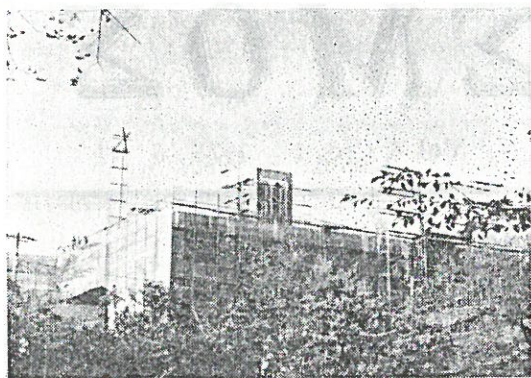


写真は、現在の図書館

巻頭言	1
新図書館二題	2
新刊図書案内	3
複写と新著作権法	4
奉仕関係利用状況	5
参考図書の解題	6
辞書体目録	7-8
三島由紀夫文献目録	8-9
新入館員紹介	10

## 新図書館二題

### 完成間近か（白山）



大講堂裏に、昨年7月に開始した図書館の建築は、その後工事が順調に進行していますので、その経過と、今後の計画をお知らせ致します。

### 新装開館ア・ラ・カルト(工学部)

昨年9月に開けてびっくり、ハヤ半年を経過。もはや10年位住みついたような気さえて、この図書館の設計がよいのか、我々の順応性が、バツグンなのか、とにかく順調なすべり出しをきって、軌道に乗ったかんじです。

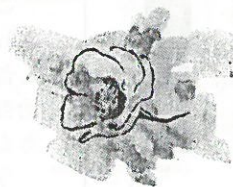
振り返ってみると、ちょうど、ボクがここへ迷い込んだのは、分館の建設が決って、話しが具体化しはじめた頃です。最初は、何もわからず、一体どんなものができるのかなと、やじうま精神で研修に参加。工事現場を見物、写真をとったり、屋根の上にあがったり、楽しかったな。

さていよいよ完成。とにかくあの夏の日の引越しときたらホント、思い出しただけでも、ジットリ汗ばんできそうなくらいです。皆、三角布にスラックス、エプロン、それに軍手といったものスゴいでたちで、はしごを登ったり降りたり、ついには猛暑のため、発狂するんじゃないかという恐怖心にさいなまれながらも、ついに開館の日を迎えました。

広いロビー、じゅうたんを敷きつめた、ガラス張りの明るい閲覧室は、たちまち学生の人気を集め、毎日大入り満員御礼の垂幕を出さんばかりの大盛況となりました。下の事務室の方では、これを契機として整理業務が始められ、少ない館員は

昨年9月末に基礎工事が完了し、10月末から躯体工事が行われ、今年2月にはほぼ完了しました。昨年12月中旬からの、ブロック石工事も、今年3月中旬に完成し、現在は、内部・外部左官が行われています。また、書庫内は、書架組立が遅れている関係から、多少工事が渋滞していますが、6月20日までには完了するように進められています。

塗装、電気設備、空調衛生、外構工事等が行なわれ、完成は、6月23日の予定です。7・8月に図書館の引越しを行い、9月中旬頃から使用できると思われます。（新図書館建設世話人会）



フル回転。途中で目がまわって、ヒックリかえる者もいるんじゃないかという期待もさながら、思いもかけず順調にはかどり、館員もふえ、雑誌のコンテンツ・サービス、レファレンス・サービス等、充実した活動が行われるようになりました。

この4月には、新入生カンファレンスに、大いにディスプレイをして、図書館活動をピーアールしようというので、スライドとテープレコーダーを使ってガイダンスを行いました。その成果あってか、利用者側と奉仕側との呼吸もあって、この新分館スタートはまづまづと、館員一同ニコリ…。意気揚々、やる気充分といったところですよ。

この図書館のまわりには、あっと目をみはるような日本庭園が造られています。暖かい春の日差しをうけて、緑の芝生に、花が一杯。思わずおハナもピクピク、カマキリもキリキリ。かんばしい香りが、におってくるような気がしませんか！



（工学部分館 赤星敦子）

桜井庄太郎著

「名誉と辱恥—日本の封建社会意識」

本書は個々に発表された論文を集めたもので、「日本の封建社会の社会意識を対象とし、あるいはそれに関連した問題を取り扱った論文」が集められており、全体の統一が試みられている。

著者は、「封建社会は封建制度を社会の基本構造とする社会である。＜中略＞封建制度成立の基礎をなすものは、主従関係と恩給制度（土地の封与・分封）であると考え「……封建社会は、自由なき社会、不合理の社会、保守的・停滞的な社会」であった。封建制とは「暴力の形で行なわれる不合理なもの」と筆者は考える。

日本の社会では、社会関係の大部分は上下関係であったし、現在も同様であり、日本の集团の特質を 1. 封建的な上下関係を中心に組織され、統制が容易である、2. 封建的・排他的である、3. 暴力的である、とし、上下関係の礼儀なども、統制原理に立脚したものであり、固定された社会秩序の維持のみを目的としたもので、これは日本の近代・現代の政治が 1. 少数専制＝世論無視、2. 秘密主義、3. 私的・階級的性格、4. 女子の不参加、5. 暴力による支配である点では変化がないと論断している。

本書は、今なお残る封建的な社会意識・道徳観念を具体的に把握するには大変便利であるが、著者の言うように封建制度それ自体を明らかにするのが目的ではないといっても、封建社会の社会意識・道徳諸観念を考察することにより、封建社会というものの側面から光をあてるということに成功したかどうか一抹の疑問が残る。（J）

昭和46年3月刊 法政大学出版局 請求記号・362.1:SS

~~~~~

古田足日著

「宿題ひきうけ株式会社」

現代の子供について私はあまり多くのことを知らないが、この本は、現実の中に生きる子供達の姿を生き生きと描き出しているように思われる。彼らと切り離すことのできない宿題をテーマに、現代社会の矛盾に対して素朴な疑問をもち、大人

のこたえをそのまま受け入れるのではなく彼らなりに様々にだしあい納得するまで話しあう。その中で突飛なアイデアをだしたり通信簿、試験、宿題等の不合理性をつき、将来のことを考えたり、さらにクラスのボスを追放しようというところまで発展してくる。最初、彼らは、友達の宿題をいくらかの手数料をとってひきうけることを思いつき実行し、この会社は順調に伸びていったが、ある時この事実が先生にわかってしまい社員一同不本意ながら会社を解散する。そして、彼らは、学校や、家庭以外で労働組合というものを知る。そこで学ぶということの中味について少年は自分の眼と肌で識る。学校で頭につめこまれるのだけが勉強でなく、自分の体験として得たものから学んでゆくのもひとつの勉強ではないだろうか。彼らはそうも考えて見る。かくして、宿題ひきうけ株式会社は、試験・宿題なくそう組合に発展し実質的成果もさっそくにあげてゆく。子供とはこんなにもまっすぐに素直にかつ積極的に社会に対応し物事をみているんだなあということを感じさせる。中学生向きとされているが我々が読んでも十分にたのしめる内容である。（O）

昭和45年11月刊 理論社 請求記号・913.6:FT-3

~~~~~

吉住慈恭著「芸の心」

「唄というものは、ふだん話しをしているのと同じようなものだから＜中略＞ふだん、話をし、口をきいている心もちでいけばいいものだね」

これは、14才にして3代目吉住小三郎を継いで、4代目吉住小三郎となった著者の言葉である。

この考え方は、今日に至るまで著者の長唄に対する考え方となって生きている。

芸道を極めようとする芸人達の血のにじむような努力や、声のいい者に水銀を飲ませて声をつぶしてしまうというような、暗暗裏の争いがあったりして、興味ぶかい本である。（H）

昭和46年3月刊 毎日新聞社 請求記号763.5:YK



## 図書館における複製と新著作権法

遠藤 厚之助

今日、図書館におけるリコピー、ゼロックス等による複製手段の需要はめざましく、図書館自体のみでなく一般利用者也、何の疑問もなく当然のこととして日常的に利用している。しかし、これを法律的な側面からみると、かなり微妙で、しかもめんどろなことがからんでいるのであるが、一般に見過されている。

旧法はともかく、去る45年5月に成立し、本年1月1日から施行されている新著作権法との関連でこれをみることにしよう。周知のごとく旧著作権法は、明治32年の制定にかかるもので、実に71年ぶりに全面改正せられたのであり、内容的には国際水準をみたすもので、まさに画期的なものである。

さて、これを複製という視点からながめてみると、旧法では、著作権者を保護するための著作権に対して、それを制限するものとして、私的利用のためにする器械的・化学的方法によらない複製のみが認められている(30条1項1号)。しかしこれは、現在の複製手段の発達普及度からみて実状に合わないことは勿論で、新法ではかかる制限を除いている(30条)。もともと、このような制限は、著作権者の利益の侵害を阻止するためにあるのであって、だからといって、非営利・閉鎖的かつ少数の複製物の作成を阻止するまでのものではない。ただ今日のように、リコピー、電子リコピー、ゼロックス、テープレコーダー、ビデオ・テープレコーダー等、複製手段の発達普及がめざましくなると、大量の私的利用者を生み出すこととなり、将来、著作権者に大きな影響を与えないという保証はない。

そこで新法は、第31条で、図書館等において複製のできる場合を、次の三つの場合に限定して認めることとしている。すなわち、第1に、図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分(発行後相当期間を経過した定期刊行物に掲載された個々の著作物にあっては、その全部)の複製物を一人につき一部提供する場合、第2に、図書館資料の保存のため必要がある場合、第三に、他の図書館等の求めに応じ、絶版その他これに準ずる理由に

より一般に入手することが困難な図書館資料の複製物を提供する場合についてである。

このような、新法で規定する図書館等におけるサービスとしての複製作業も、前述の複製手段の発達普及の波のなかで、果して現実には守られていくかは疑問視されるところである。著作権の保護と複製手段の発達普及による利用増大との問題は、今後のこの分野での重要課題である。この点で、ドイツの新著作権法はきわめて示唆的である。また、昨年7月に開かれたユネスコの保護著作物の写真複製に関する専門家委員会でも、図書館による複製について、各国法の分析と論議の集約として有用な勧告を行っているのが注目されるところである。

(法学部教授)

(編集委員、注・本稿は、昨年に頂いたものですが、本紙の刊行が遅れたため、若干の訂正をさせて頂きました。筆者に深くおわび申し上げます)

### 雑誌室より

現在の雑誌室は席数が24という、まことにもって驚くべき少なさで、超満員の日が続き、皆様に御不自由をおかけしています。

開架点数が114誌というのも部屋の狭さから、いたしかたないのです。

どうか、くれぐれもこの雑誌室に開架されているものが東洋大学図書館で所蔵する雑誌の全てであると思わないで下さい。

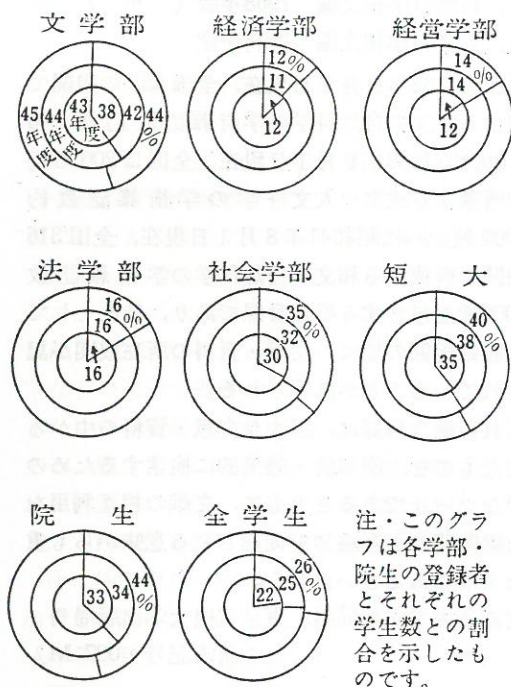
所蔵誌の数は、約3200誌、うち大学・学術団体の紀要類が約1200誌ほどあります(タイトルであって冊数ではありません)。雑誌の生命はいろいろ言われますが、まず速報性であり、簡便さでありましょう。従って数ヶ月経つと製本という作業が必要となります。原則的に、製本された雑誌には分類番号がつけられ、カードが作られて現在の第一閲覧室にある辞書体目録に排列されますが、未製本のものに関しては受入記録が雑誌室にしかありません。

読みたい雑誌がありましたら雑誌室にお尋ね下さい。

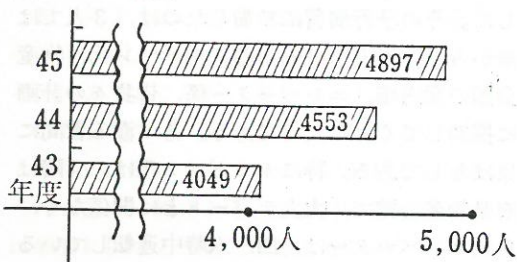
その他不明なこと、希望等、何でもお問合せ下さい。(I)

# 年々ふえている利用者—奉仕関係利用状況—

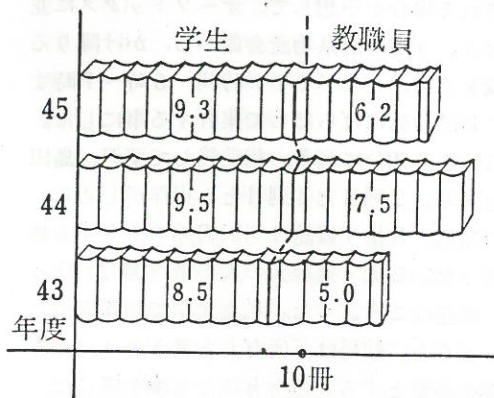
## 貸出カード登録率



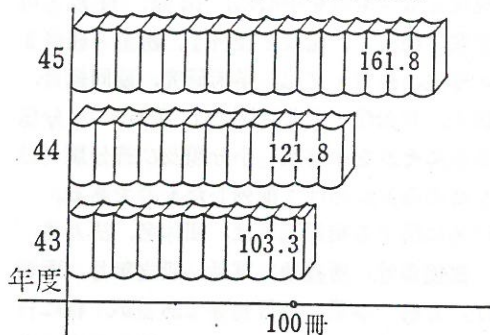
## 登録者総数



## 第一閲覧室:一日平均貸出冊数

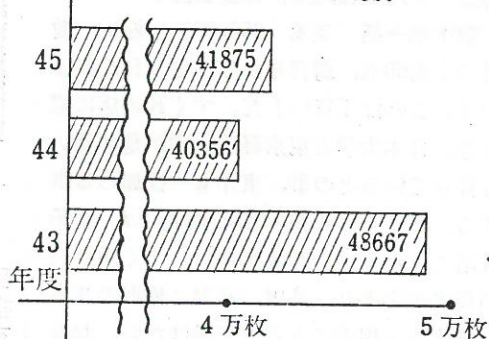


## 第二閲覧室:一日平均貸出冊数



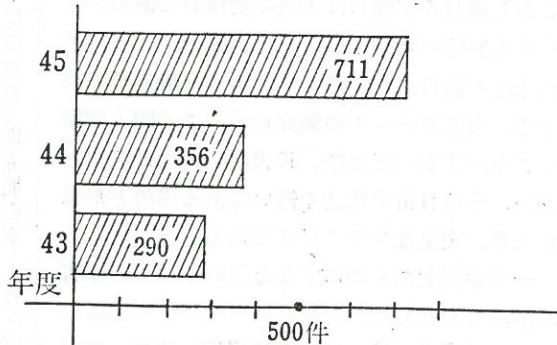
注・43年9～10月及び44年9～10月は、学内紛争のため、開館日数が少ないが、上のグラフは、一日平均の数であるから、その事情は、ほとんど無視されてよい。

## ゼロックス複写利用枚数



注・44年度より試験期間中におけるノート類の複写は取扱わないことにしている。

## 参考質問件数



## 参考図書の解題

### ①「全国各種団体名鑑」

本書は、全国に点在する各種団体のうち、全国的な規模をもつものを中心に、国際、行政・司法、産業・経済Ⅰ、産業・経済Ⅱ、産業・経済Ⅲ、社会・厚生、教育・文化、学術研究、協同組合、学校法人、官公庁・公共機関の11項目に大分類し、さらにそれを中分類、小分類及び細分類（必要なもののみ）にわけて配列したものである。

各団体に関する集録記事は、団体名、法人格、略称、郵便番号、所在地、電話、設立年月、所管官公庁、目的、事業、刊行物等であるが、特に刊行物が詳細に記載されている点は、資料収集に当るに際して便利なものであるといえる。（全国各種団体連合会出版局編刊 請求記号・061.035:Z）

古書展の目録が図書館に配達され、第1頁目に「書誌」となっていて、雑誌書誌学コレクション 数十種一括 美本 850,000とあり、数えてみると約60点、創刊号からかなり良く集まっている。これは「買い」だ。すぐK書店に電話した処、日本大学と東京経済大学が是非買いたいと言っているとの事、東洋も一枚加わる事を告げる。ますますK書店では当惑した様子だが、電話ではあるが、想像出来た。すぐ両課長及び関係者が集まり、島田、栗沢、梅沢の3名が買手と成る。相手にとって不足はない。お金持ちの日大、熱心な東経大、なんとしても取りたい。「セリ市」ではないので条件は皆一線である。前日の作戦が非常に大切になってくる。しかし前日の木曜日は大丸の定休日である。

でも展覧の飾付準備はしているはず。直感的に本屋の店員になりすます。大きな風呂敷を持って、大丸デパートの納品口へ。この間、守衛をごまかす事、三たび。K書店の本当の店員と会い、その目指す雑誌の置いてある場所と形状を入手。完全なフライングである。

一つを完全なものにすると又いくつもの障害が浮んで来るものだ。狂心的マニア、大部隊のゲリラ（資本を持っている他書店）達が、亡霊の様に、3人を心配へとかりたてた。とにもかくにも、一番先にその目的物に到達しなければならない。それには3人が、金魚の糞の様に行動を共にしてはそんである。それには3人が三

### ②「学術雑誌総合目録」

- イ. 自然科学欧文編 1966年版（改訂版）
- ロ. 人文科学欧文編 1967年版（ " ）
- ハ. 自然科学和文編 1968年版（ " ）
- ニ. 人文科学和文編 近刊予定

(イ)は昭和38年9月1日現在、全国253の機関で所蔵する欧文の自然科学の学術雑誌数約25,000種。(ロ)は昭和39年9月1日現在、全国2,200の機関で所蔵する欧文の人文科学の学術雑誌数約20,000種。(ハ)は昭和41年8月1日現在、全国316の機関で所蔵する和文の自然科学の学術雑誌数25,000種を包含する総合目録であり、特色としては、収録範囲の他に、文献・資料の所在機関が記載されていることがあげられる。

これら総合目録は、膨大な文献・資料の中から必要なものを、能率的・効果的に検索するための重要なツールであるとともに、文献の相互利用を含む機関間の相互協力を促進させる意味からも重要なものであるといえよう。

（文部省大学学術局編、東京電機大学出版局刊  
請求記号・027:M）

### 目指す雑誌—大丸・秘蔵古書大即売展の事—（梅沢瑠汎記）

様で一つの目的に向いたかった。そこで内から、外から、東京駅ビルを下見して、予行演習した。その予行演習に参加したのは、3人では無かった。大丸デパートのガードマン氏、物産会館の案内嬢、エレベーター係、皆我々の計画に援助してくれた人々である。あゝ渡る世間に鬼はなしである。特にガードマン氏は、9階は府県物産会館で、大丸デパートとは関係なく、自動エレベーターは、四、六時中運転していると教えてくれた。その結果、当日は整理券を発行される場合を予想して、オーソドックスに並ぶ者と、9階の府県物産会館から、かけ降りる作戦を立て、なるべく早い時間、5時～7時までに目的の処にばらばらで集合する事にした。当日は5時40分に到着。相前後して栗沢、島田君も来る。2列目と4列目とを東洋がしめる。10時開店。目指す雑誌は当図書館の所有する処となった。日大・東経大の人が来て残念がった。僕達はこう言った。私立大学で相互貸借しましょうと。結局は「所有」と言うのは、その学問を必要とする人の所有になる事を感じた。

## 有機的関連性に長所

山内 四郎

当館の閲覧者用目録には辞書体目録と分類目録とがある。

辞書体目録とは図書を著者名、件名、書名などいずれからでも検索できるように、それぞれを標目にしたカードをアルファベット順に並べた目録である。件名とは図書の主題を言語で表現したもので、一定の体系的分類表（当館では日本十進分類法 N.D.C. を採用している）によって主題を数字などの記号で表現しているものに対比される。またこの分類記号の順に並べた目録が分類目録である。標目とは、個々のカードの最上段に記入された著者名、件名、書名などの見出しのことであり、本館の件名標目は赤字で表示されている。

次に件名標目を著者、書名との関連において例示すると次のようになる。

(件名標目)	(著者名)	(書名)
経済学	中山伊知郎	純粹経済学
経済学	佐藤豊三郎	新しい経済学

以上のように、書名の冒頭が件名と相違する図書も多いが、一致するものも少なくなく、全く同一の時もある。この時は書名カードは不要となる。

分類目録では、同一主題の図書でもその書かれる学問的分野によってカードは分散されるが件名では一語で一括される。当館は、次に例示するだけ騒音に関する図書を所蔵しないので恐縮ではあるが可能性として次のようになる。

(件名)	(学問的分野)	(分類)
騒音	物理学	424.9
騒音	環境衛生	498.4
騒音	建築	524.96
騒音	労働衛生	498.82
騒音	都市工学	519.56

このように各分野の騒音の問題を通観しようとするとき、件名は極めて大きな効果をもつ、分類目録でこの目的を果すことはいかに分類表に習熟している閲覧者でも不可能に近い。分類目録に件名の索引をつけ、それを介してそれぞれに分類さ

れた図書を検索する方法もあり、分類表の索引を使用することもできるが、その迅速性において件名の比ではなく、分類表の索引を使用する場合は、目的とする図書を所蔵しない時などは検索不可能となる。

辞書体目録における著者名、件名、書名を有機的に関連づけるものに参照カードの機能がある。

参照カードには

1. 本名の他にいくつかの名をもつ著者を一つの名に統一して検索できるようにしたもの“……を見よ”
  2. 件名標目において同義語を一語に統一して検索できるようにしたもの“……を見よ”
  3. 関連主題への案内をして、類似や同種類の図書の存在を知らせるもの“……をも見よ”
- の3種がある。

辞書体目録には、さらに次の二つの利点がある。

1. 1個人の著述とその研究書が、著者名標目と、件名となる個人名（またはその書名を含む）とが共通するため一覧できる。

例えば

紫式部 源氏物語 池田亀鑑校注  
紫式部 源氏物語 久松潜一 阿部秋生編著  
紫式部 源氏物語 谷崎潤一郎訳

と一個人の著述のあるあとに、その研究書の  
紫式部 源氏物語 秋部秋生 評釈源氏物語  
紫式部 源氏物語 秋山虔 源氏物語の世界

がくる。

2. 同一地域の歴史、経済、法律等は、地域名とその主題とが件名となるため通観でき、その地域の団体名を標目とする著者名カードとも共通する（この点当館の辞書体目録は必ずしも十全とは言えない）ため地域の総合的研究には極めて便利である。

例えば

京都市 文学京都  
京都市 京都名勝誌  
京都市 京都の歴史

と団体を標目とする図書のおとに

京都市一地誌 藤岡謙二郎 北白川と嵯峨野  
京都市一歴史 林屋辰三郎 京都

（次ページへつづく）

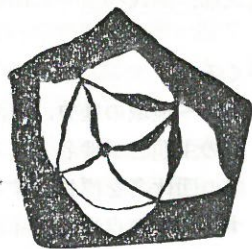
がくる。

当館では作っていないが、世間には分割目録と呼ばれる目録がある。これは、著者、件名、書名それぞれが、著者と書名、件名とを別々に編成した目録である。辞書体目録を分割したという意味でこの名があり、主な理由は辞書体目録のカードの膨大化にあると言われている。著者名目録、書名目録は著者名なり書名なりを正確に知る者以外には利用できないし、本館の現状は分割を必要とする程カードは多くない。

著者、主題、書名といった目的を異にする閲覧者が、辞書体目録をひくに及んではからずも豁然として前が開けて、自分の望む図書に関連のある図書を発見することにもなるのである。

要するに辞書体目録とは、著者名、件名、書名を標目とするカードが無関係にアルファベット順に並べてあるだけでなく、検索の目的を異にする著者名と書名の中に件名が加わり、更に参照カードを丁寧に入れることによって渾然一体とした有機的関連性をもつ一本の目録体系に編成したものであることができる。

分割目録の所で若干ふれたが、辞書体目録の限界説もないではないが、境界領域への研究の拡大、各分野研究者による同一テーマの共同研究などが盛んになるにつれて、この目録の利用価値はいよいよ高まるものと言える。(図書館員)



#### 故 佐久間鼎先生の蔵書を購入

かねてより購入を希望していた佐久間先生の遺蔵書が、恩田先生の仲介もあり8月31日に購入が決定した。

和洋合せて700冊前後あり、貴重な資料を閲覧に供すべく、受入・整理中である。

#### 昭和46年度予算ほほ出そう

去る4月28日の図書館運営委員会で、図書費並びにその各学部配分案が了承され、下記の通り決定した。なお新図書館関係の備品、移転等は検討中。

(単位千円)			
文学部	2,800	短期大学	1,800
経済学部	2,200	助成金	7,000
法学部	2,200	逐次刊行物	5,200
社会学部	2,200	継続叢書	3,500
経営学部	2,200	図書館	11,000
教養課程	2,200	予備費	5,000
大学院	2,700		
白山本館図書費	計	50,000	
工学部分館図書費		10,000	
白山本館管理経費		2,530	
(印刷製本費)		2,400	
(会議費)		50	
(雑費)		80	

#### 三島由紀夫研究文献目録 (第2回)

- 臼井 吉見 『『金閣寺』評』(日本経済新聞, 昭和 31.10.6)
- 山本 健吉 『簡素な古典形式』(図書新聞, 昭和 31.11.24)
- 埴谷 雄高 『三島由紀夫』(新潮, 昭和31.12『鞭と独楽』所収 昭和 32.6)
- 遠藤 慎吾 『『鹿鳴館』と『婦系図』』(現代劇, 昭和 32.1)
- 小林秀雄・「対談一美のかたち—『金閣寺』をめ  
三島由紀夫 ぐって」(文芸, 昭和 32.1)
- 三好 行雄 『『金閣寺』について—その構造』  
(日本文学, 昭和 32.3)
- 中村 光夫 『三島由紀夫』(講談社「中村光夫  
作家論集」昭和 32.3)
- 進藤 純孝 『『金閣寺』論』(新日本文学, 昭和  
32.4)
- 臼井 吉見 『三島由紀夫』(『人間と文学』, 昭和  
32.5)
- 埴谷 雄高 『三島由紀夫』(未来社『鞭と独楽』,  
昭和 32.6)

(次ページへつづく)

- 正宗 白鳥 「炉辺雑感—『金閣寺』を読んで」  
(東京新聞, 昭和 32.1.24)
- 中野 重治 「『潮騒』と大人気ない話」(新日本文学, 昭和 32.10)
- 山本 健吉 「解説」(筑摩書房「現代日本文学全集」83, 昭和 33.7)
- 石原慎太郎 「『美徳のよろめき』論」(新潮, 昭和 33.8)
- 進藤 純孝 「三島由紀夫論」(誠信書房「戦後作家研究」昭和 33.5・6)
- 進藤 純孝 「三島由紀夫論」(「明治大正文学研究」25 昭和 33.11)
- 野島 秀勝 「三島由紀夫論—『拒まれた者』の美学」(群像, 昭和 34.2)
- 平林たい子 「実感的作家論—三島由紀夫論」(群像, 昭和 34.6 文芸春秋社『自伝的交友録実感的作家論』所収, 昭和 35.12)
- 饗庭 孝男 「三島由紀夫論」(近代批評, 昭和 34.6; 審美社『戦後文学論』所収, 昭和 41.11)
- 花田 清輝 「魔法の鏡—三島由紀夫の近代をめぐって」(群像, 昭和 34.12)
- 山本 健吉 「解説」(新潮社『日本文学全集』68 昭和 34)
- 三好 行雄 「三島由紀夫」(解釈と鑑賞, 昭和 35.9)
- 落合 清彦 「三島由紀夫論序説(一), (二)」(解釈, 昭和 35.9—10)
- 村松 剛 「三島由紀夫論」(文学会, 昭和 35.1)
- 磯田 光一 「三島由紀夫論」(群像, 昭和 35.10)
- 清水 信 「三島由紀夫論」(近代文学, 昭和 35.10)
- 湯地 朝雄 「三島由紀夫論」(新日本文学, 昭和 36.2)
- 戒能 通孝 「『宴のあと』とプライベート」(図書新聞, 昭和 36.3.25)
- 秋永 悦郎 「三島由紀夫氏へ」(文学者, 昭和 36.5)
- 江藤 淳 「三島由紀夫の家」(群像, 昭和 36.6) (講談社, 『江藤淳著作集』所収 昭和 42.10)
- 吉田 精一 「三島由紀夫と中世能楽」(至文堂, 『現代文学と古典』所収昭和 36.10)
- 三好 行雄 「三島由紀夫入門」(講談社『日本現代文学全集』100, 昭和 36.10)
- 片口 安史・三好 行雄 「三島由紀夫」(至文堂『現代作家の心理診断と新しい作家論』所収, 昭和 37.1)
- 板垣 直子 「三島由紀夫」(解釈と鑑賞, 昭和 37.4)
- 戸井田道三 「三島由紀夫と能」(国文学, 昭和 37.6)
- 村松・佐伯・奥野 「座談会, 大宰治と三島由紀夫」(新潮, 昭和 37.6)
- 山本 健吉 「十二の肖像画—三島由紀夫」(群像 昭和 37.2)
- 本多 秋五 「理解されなかった三島由紀夫」他 (新潮社『続物語戦後文学史』所収 昭和 37.11)
- 三好 行雄 「『金閣寺』鑑賞」(三省堂『現代日本文学講座・小説7』所収昭和 37)
- 瀬沼 茂樹 「三島由紀夫」(「日本青春文学名作選」6 解説 昭和 38.6 明治書院『戦後文学の動向』所収昭和 41.5)
- 橋川 文三 「三島由紀夫『林房雄論』について」(日本読書新聞, 昭和 38.10 徳間書店『現代知識人の条件』所収, 昭和 42.11)
- サイデン・ステッカー 「三島由紀夫論」(自由, 昭和 38.7)
- マリオ・テーティ 「三島由紀夫論」(新潮, 昭和 38.9)
- 細田 英公 「オブジェ, 三島由紀夫」(新潮, 昭和 38.7)
- 玉井 五一 「眞造された『政治と美』」(新日本文学, 昭和 38.9)
- 高橋 和己 「三島由紀夫小論」(文芸, 昭和 38.11)
- 奥野 健男 「『美しい星』論」(文芸, 昭和 38.12)
- 中村 光夫 「人と文学」(筑摩書房『現代文学体系』58, 昭和 38.12)
- 磯田 光一 「殉教の美学—三島由紀夫論」(文学界, 昭和 39.2~4, 冬樹社『殉教の美学』所収, 昭和 39.12)

(以下次号)

## 知識のプロムナード

伊藤 善康

門をくぐり、10m歩き、階段を5段登って、戸を押して開く。そこに検閲官がいて、ちょっと手間ができたなという感じで、通行許可証を渡す。

腰をおちつけるには、もう少し、歩く必要がある。陳列物がズラリとならぶガラスケースをぐるっと回って、書棚から雑誌を一冊とって、その反対側にゆったりと座わる。

バラバラと本をくりはじめると、突然、鼻先を人がよぎる。足をくんで、おちつこうにも、それができない。満員電車で、すわって本を読んでいる気分である。

もう少しおちつこうと思う時は、階段を20段登る気力と体力を必要とする。

あいにく、すわるために、歩く気がないので、もっぱら階上の知識の宝庫は、よくわたしを裏切って落胆させる。

そんなところでも行きたくなる。いつでも、気がるにはいっていきけるすばらしい所、これ以上の贅辞をわたしには書けない。(社会学部・学生)

### 新入館員紹介

鈴木キセ子さん



太陽に恵まれた福島県から、上京してきたばかりの初初しいお嬢さんである。好奇心が強いと同時に堅実な考え方の持主であり、昼間は図書館勤務、夜は本学の経営学部学ぶ18才である。

(整理課所属)

薮島俊雄くん



本年度、新たに4人の職員が図書館に配属されたが、その中でただ一人の男性であり、最年長者であるという。一見、ムツリしていて近寄り難い感じを受けるが、話してみるとそうでもなさそう。ロマンティストでかなりのスタイリストという噂もある。埼玉県出身、23才。(図書課所属)

藤野久美子さん

今年短大を卒業して川越分館の閲覧に配属され、分館のフレッシュな戦力として期待される。

小柄な身体に童顔といった風貌には程遠い大人っぽい人である。分館から一時間程のところにある埼玉県鳩山村に生まれ育った。



(工学部分館所属 閲覧係、写真・右)

赤星敦子さん

近代的な川越キャンパスのなかでも、とりわけ近代的な造型美を誇る分館にふさわしい近代的な感覚を持ったひとである。

年令のわりにはなかなかしっかりした、如才のないお嬢さんである。神奈川県出身、年齢不詳。

(工学部分館所属 写真・左)

### 誤植訂正とお詫び

前号 (Vol.5, No.1 通巻13号) に下記の通りの誤植がありましたのでお詫びして訂正致します。

2 P. 右上から3行目 建築準備委員会  
↓  
運営委員会

2 P. 右下から2行目 10万冊  
↓  
約6万冊

5 P. 左上 三島由起夫書誌  
↓  
三島由紀夫

6 P. 下から6行目 通巻12号  
↓  
13号

### 編集後記

まず長いこと発行が遅れたことをお詫びします。この号から誌名を、宇宙または世界を意味するギリシャ語の  $\text{KO}\Sigma\text{MO}\Sigma$  (コスモス) と決めました。新しい編集委員会ともどもよろしく。内容も、辞書体目録をシリーズとして取上げ、皆様の活発な意見を紹介するつもりですので、ふるって御投稿下さい。その他の投稿、注文何でも歓迎いたします。